

尾張名所圖會
前編

ル 4
3376
3



門ル 4
號 3376
卷 3

尾張名所圖會卷之三

目錄 愛智郡

熱田

熱田大神宮

日本武尊宮篁媛命に別々吾々宮

御神詠和歌

師長公琵琶の秘曲奉納の圖

信長公田陣の圖

御本社正殿

土用殿

神位

攝社

四疆の神門

八疆の鳥居

不實梅

一の鳥居の圖

蓬萊

雲見山

楊貴妃石塔の址 例祭

踏歌の神事の圖

御的射の圖

印地打の古圖

祈年祭の圖

舞樂の圖

端午馬の塔の圖

神寶

享祿の古圖

御神馬飾皆具の圖

神領

大官司及び社家歴代の畧傳

神宮寺

下馬橋

中森

泪川

秋月院

圓通寺

南新宮

大山車樂の圖

大福田社

日割御子社

門 呂
號 288
卷 3





山縣周南

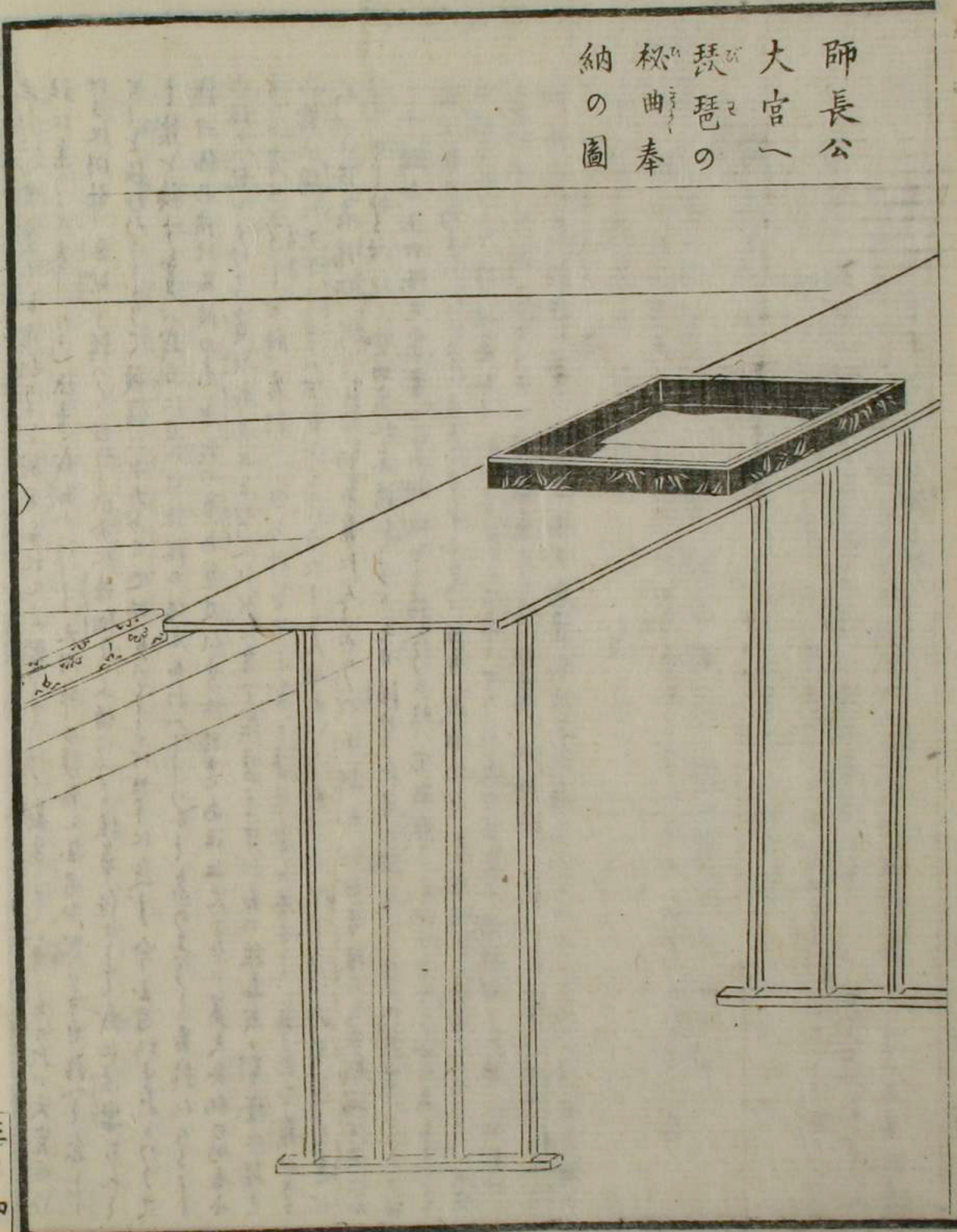
文集
東征東服
西伐西來
桓威武
四方維宜
帝子孝兮
是庸不疑
蝦夷奔駟
能戎芟夷
丕顯厥烈
帝勳詢熙

日本武尊官笈
媛命と一別の時
形見に寶劍
と授たまふ
圖



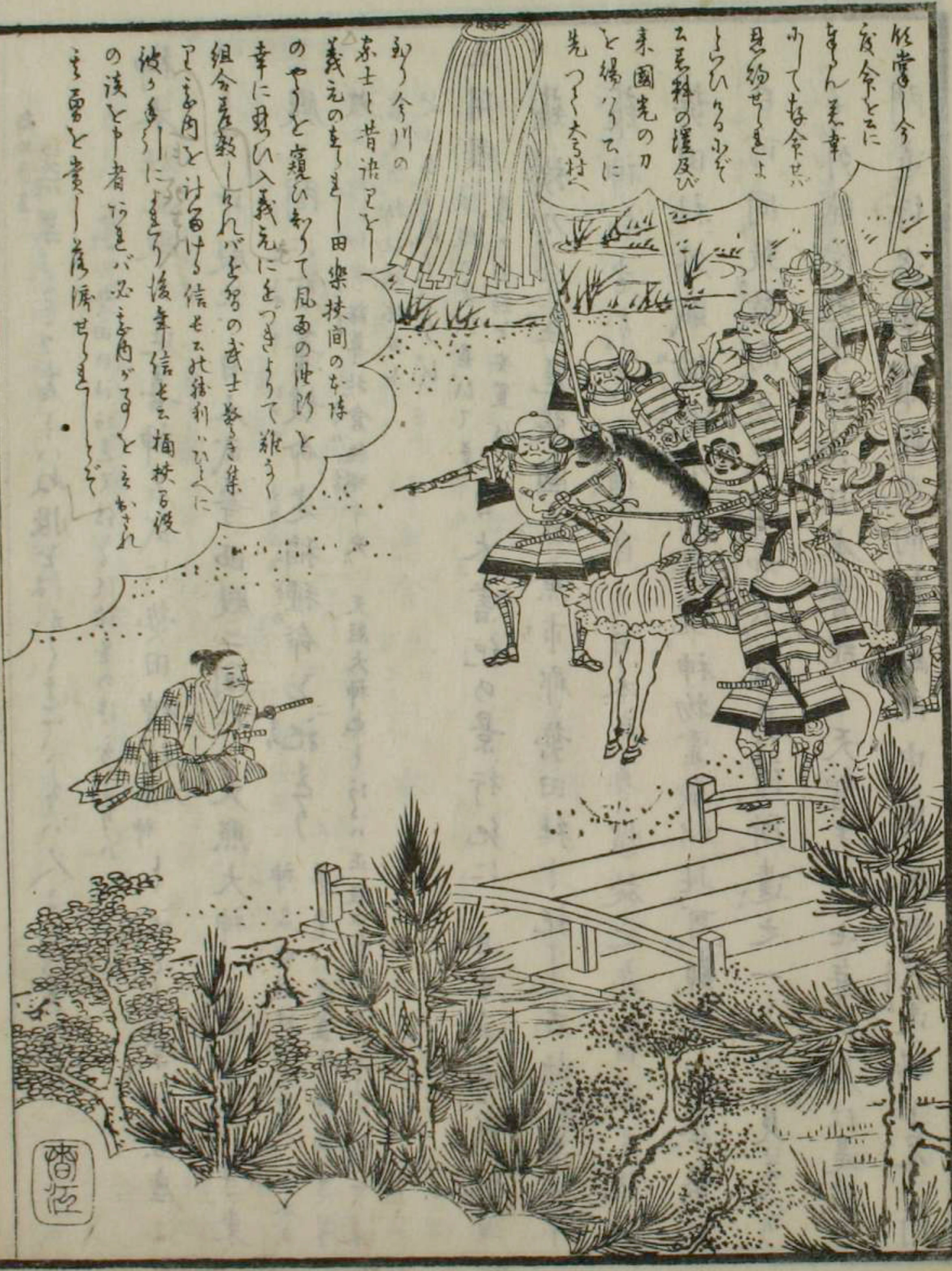


師長公
大官一
瑟琵琶の
秘曲奉
納の圖



信長公出陣の図

桶狭間合戦記及び白華陸軍尾陽雜記に
 信長と未だ宮中より退りたるに梓色の帷子織着たり
 男一人鎮皇門の側に遊歴す云彼ハ何れの者
 ぞと問甘く是乃是ハ某ハ合村の者なり
 所死ありて日と未だくは今日津合戦
 ば一と承て死むれり十合戦ハ何れと問
 是乃ハと疑侍勝也と答ける頼色尋
 半歩ハ思ひはれハをく石赤赤性
 と尋らるに某ハ甲斐の武田の某
 奈加かえちが赤子幼年少
 駿河の大家の赤子とありて
 わりて男色の身につのり
 今川家此道智七人と争
 満一も由五人と討る
 駿河とて多々敗
 今合村に隠る名と
 赤赤と内と改め
 とす信をこころ
 義元及び其
 と能知つん
 汝も一々時
 利とゆき
 一ハ合村



任常一今
 度命とに
 せん美幸
 所て命命只
 思物せしよ
 といひるわが
 云長料の隠及ハ
 未國光の刀
 と帰るてに
 先つて合村

即今川の
 赤士と昔語と
 義元のまゝと田樂杖間の侍
 のやうと窺ひわけて見面の世評と
 幸に我ハ入義元を討つて能う
 組合を教へればを智の武士と云ふ
 己も内とけり信と云はれ利ハ人に
 彼ら多くにもさう後幸信と云桶狭間後
 の法と申者らも必し内と云と云われ
 ともと貴一は後世と云

新拾遺集
此ハ契田の社にきて侍る以て此の侍り也

御本社正殿 延喜神名式に契田神社名神大と記せり祭神五座

して中殿に 日本武尊西殿二間に 天照大神 素盞鳥尊東

殿二間に宮篁媛命建稻種命と記せり神名帳頭注に大宮ハ日本武尊東素盞鳥尊南宮篁媛命西伊井諾尊北倉稻魂中央天照大神也

之多り混す一りハ正殿の各半と一りハ行て木

土用殿 正殿の東に並べて草薙の宝劔と安置 日本書紀の景行紀に 日本武尊所佩草

薙横刀今在尾張國年魚市郡契田社と記し古語拾遺に草

薙神劔者尤是天璽自 日本武尊愷旋之年留在尾張國

契田社外賊偷逃不能出境神物靈驗以此可觀然則奉幣之

日可同致敬而久代闕如不脩其禮所遺之一也と見えり

之外賊偷逃一りハ日本書紀 天智天皇七年の卷に是歲沙

門道行盜草薙劔逃向新羅而中路風雨芒迷歸一りハ同

書天武紀に朱鳥元年六月戊寅一 天皇病祟草薙劔即日

送置于尾張國契田社と記せり凡此神劔ハ日本三種の神器

の一なりて神代より 帝王ハ涉許一りハ 崇神天皇ハ

清宇伊勢神宮にハ移り一りハ 景行天皇の清宇 日本

武尊にハ移り一りハ 今ハ御一りハ 以ハ官一にハ涉一りハ 永一り

皇國の守護一りハ 〇渡殿 釣殿 祭文殿 迴廊 拜殿

勅使殿 拜殿の南にあり直會殿と号すむハ毎年二月祈年祭十月神樂殿

海蔵門の内ハ平日ハ也一 神輿舎 法皇門の西 寶藏 本社ハ西 舞臺 勅使殿

のるにハ礎一りハ 奏一りハ 樂所二宇 舞臺の東 神廐 海蔵門の外 御饌殿 同

部屋 法皇門の内 神庫 春殿門の内 透垣 勅使殿の南 政所 法皇門の外 折一りハ

仲哀天皇の 考廟ハ 古一りハ 殿造ハ 此ハ 廣大ハ 境地

之ハ 函一りハ 子ハ 年ハ 外ハ 老ハ 樹ハ 蒼ハ 然ハ 天ハ 下ハ 後ハ 以ハ 礎一りハ 合

之ハ 函一りハ 子ハ 年ハ 外ハ 老ハ 樹ハ 蒼ハ 然ハ 天ハ 下ハ 後ハ 以ハ 礎一りハ 合

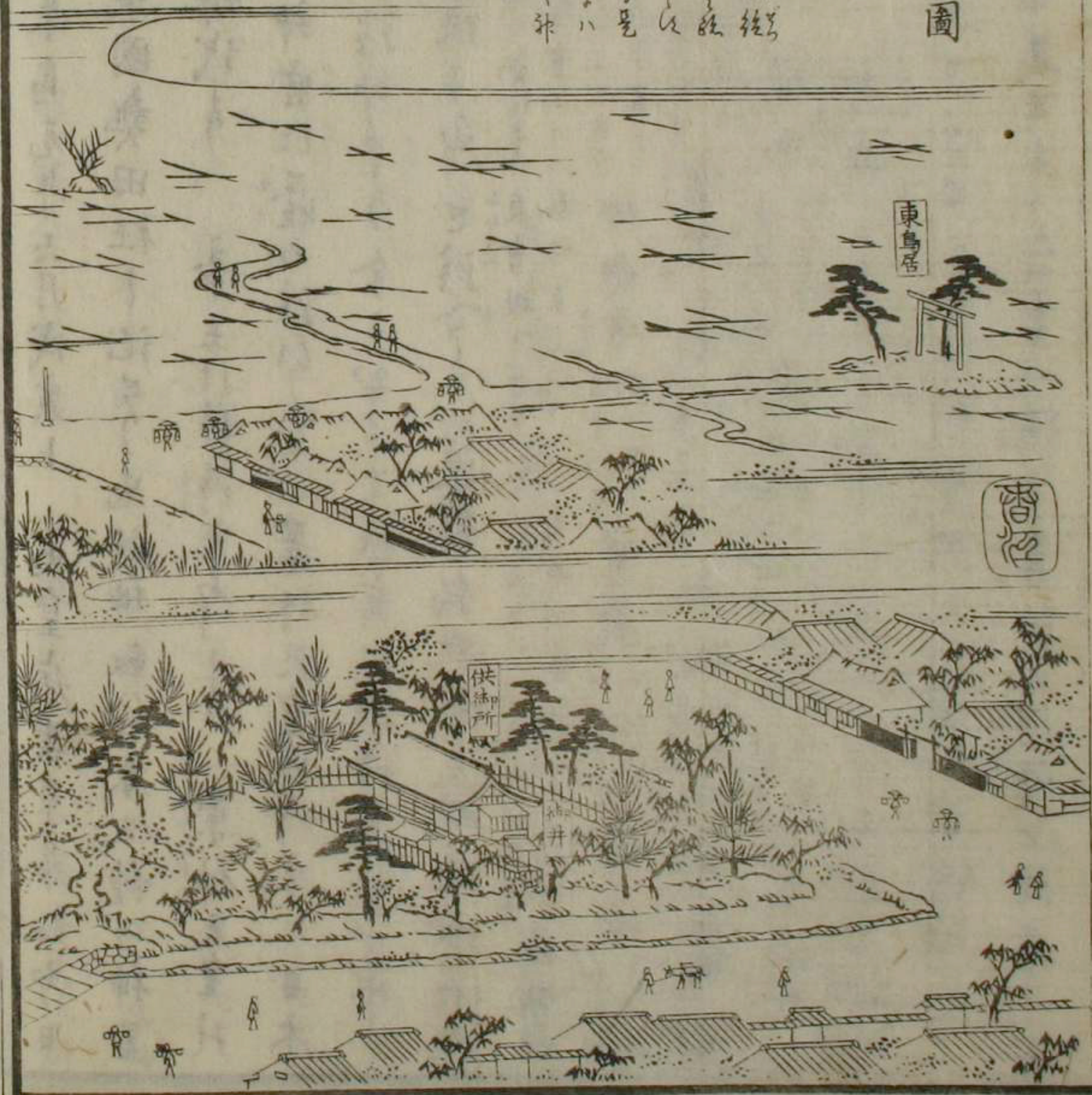
之ハ 函一りハ 子ハ 年ハ 外ハ 老ハ 樹ハ 蒼ハ 然ハ 天ハ 下ハ 後ハ 以ハ 礎一りハ 合

之ハ 函一りハ 子ハ 年ハ 外ハ 老ハ 樹ハ 蒼ハ 然ハ 天ハ 下ハ 後ハ 以ハ 礎一りハ 合

熱田大宮全圖

其一

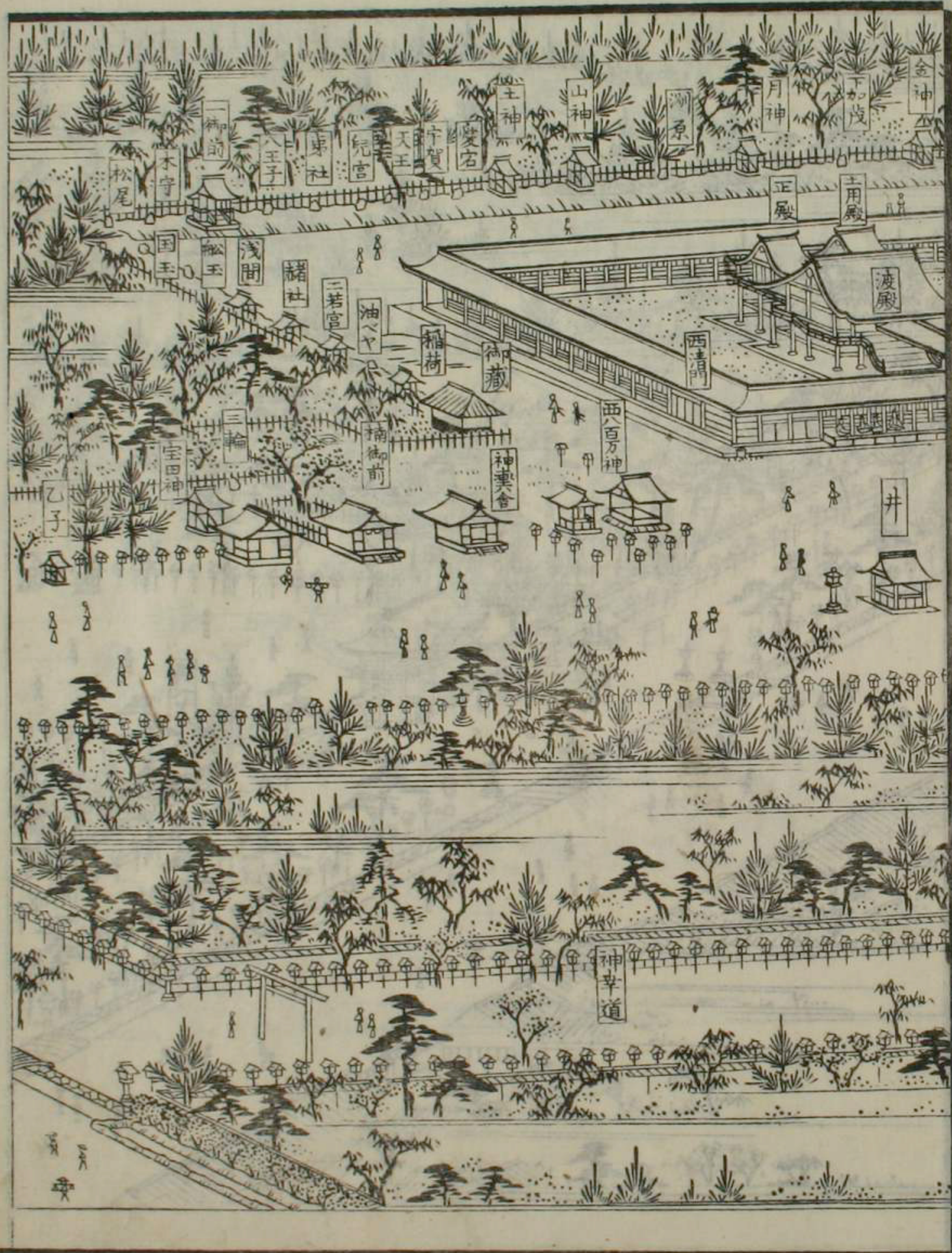
赤社の小祠中世廢後
 巨石の多し今も
 石とすまて乍ら
 所謂石井と稱する是
 ちりちりとは園子ハ
 廢社とすも悉く井
 名とすし其傍の
 木よりともせり
 則小祠の園あり
 して井名のもり
 石神の標名と
 あり

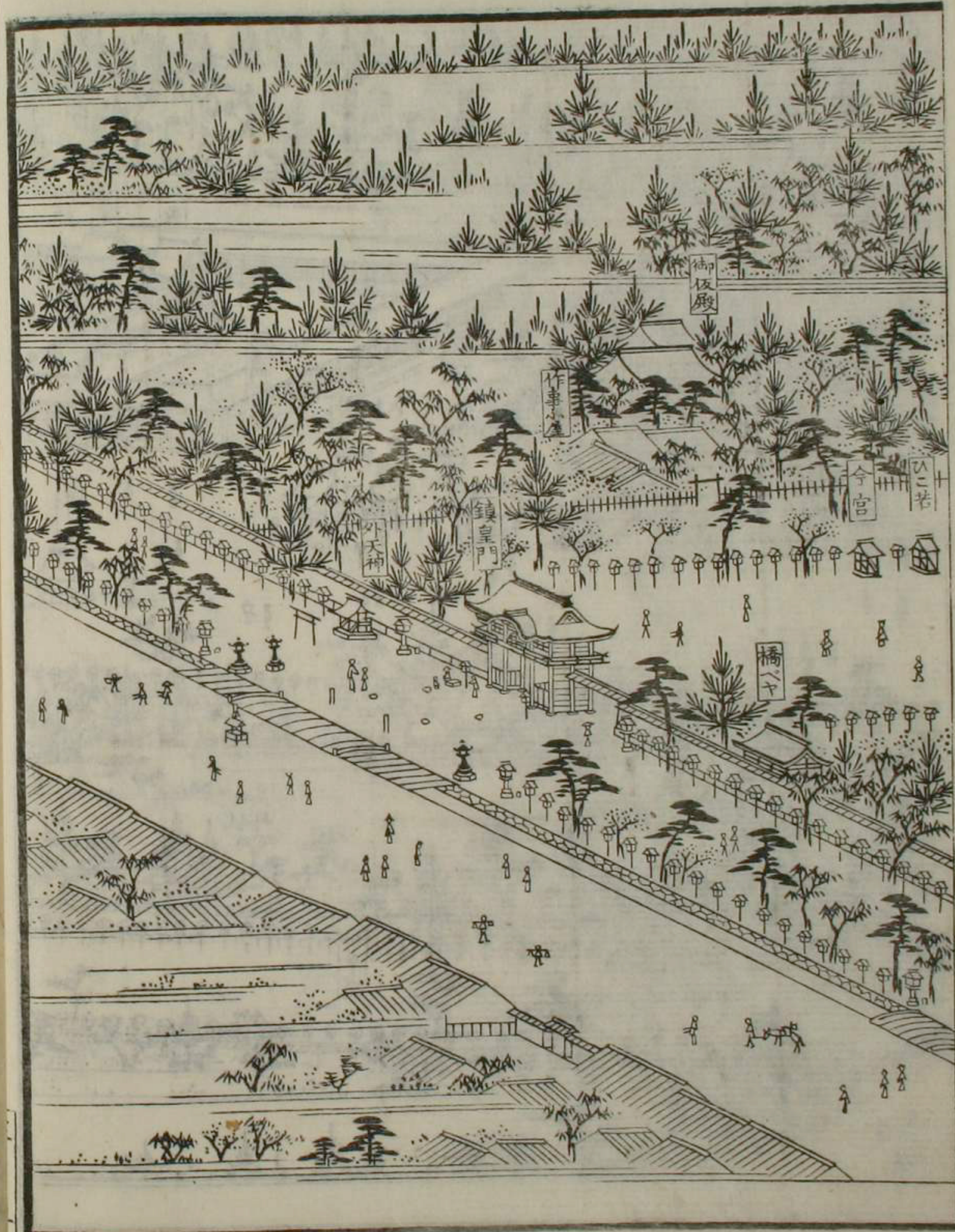
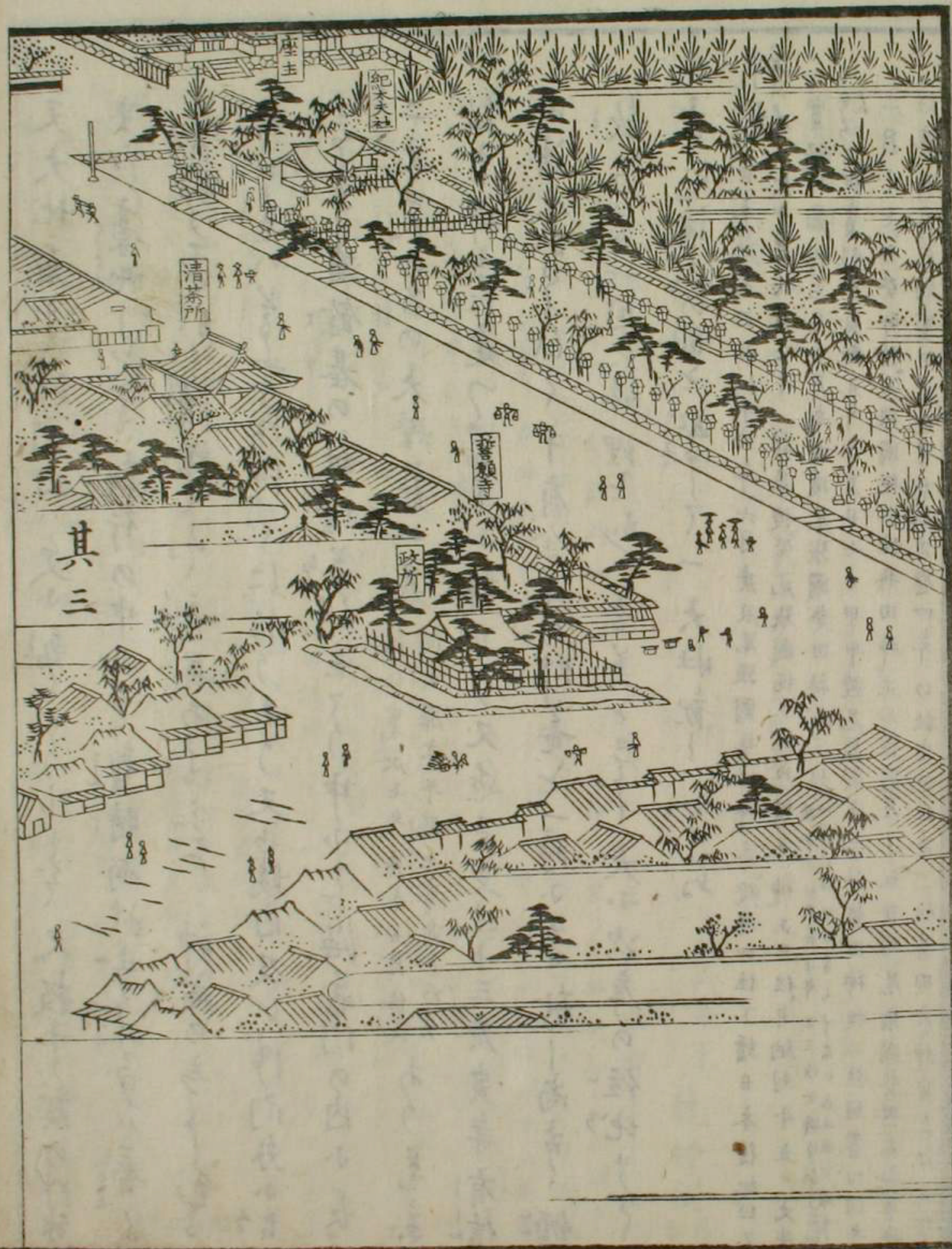


本國紀行

當宮ハ日本武尊
 おとしりるま東夷也
 伊弉諾くちりあり
 浦一くちり海濱の甲斐
 甲斐國海濱宮
 て
 みのけりけりて
 いづれも海濱の
 火のりて
 みのけりけりて
 日に十日と
 連多のこりめりハ
 中侍とすけり
 の木末沖代おん
 ともおんおん
 常伯不滅の表お
 ころころにあり







又大北表も清門内ハ文小動りざりしを又救す度の時能
事に豪雨と云ふも執行の中斗と暫時雨止るるハ普く
人の知るべく清際と云ふ音異ありしを 神威のあらはしむ
所なきはまよふは作ぐに修りあり又北境内及び清門外ハ古
より千有餘基の献燈並びまじり中斗と海龍門の内小長
二丈四尺の石の大燈籠一基 洛に寛永七年庚午五月佐久
間大膳亮平勝之寄進なり あり是系
始南禅ちに建つ所と一對なり又近き文政十三庚寅年有信
の諸人がしむく千有餘基の燈籠と一時小寺新し尚古傾
歎りし一因に修理とかく善美と云ふ大小次序の位地まじ
實に諸人の目を驚かして一大壯觀なり

神位

日本紀畧曰弘仁十三年六月庚辰尾張國神奉授從四位下續日本後紀曰天
長十年六月壬午 詔奉授坐尾張國從三位熱田大神正三位并納封十五戸文德
實録曰嘉祥三年十月辛丑授尾張國神正三位并納封十五戸文德
仁治三代實録曰貞觀元年正月廿七日甲申授尾張國正三位授田神從二位同書曰同年
二月十七日癸卯授尾張國從二位熱田神正二位同月十九日向尾張國神奉授從四位下續日本後紀曰
社奉神位記財寶日本紀畧及び正應四年の詔宣記に正一位授田大神宮一祀也

凡古記にありし神階は此より又貞治三年に書寫せし勢田座主如法院藏本の尾張國內神名帳書
類徒に正一位勲一等勢田皇太神宮と見えり尊崇の稱ハ永正六年八月の勢田溝式に日本棟梁勢田大
神百王鎮護宗廟と稱す一見平家物語源平盛衰記等に當社と爲國三の宮ありしを云々ハ
尾張國大縣より改めし之を云々と彼二社の次にいささき満の古来よりありしと見え永享
五年に寫せる安居院懷遠が神道集に或人云勢田大明神
我朝尾張國神三宮惣關淨提内神三宮と云々あり

攝社

一御前祠

社北の北にあり祭神吉備武彦命 征の御供也 副將日本書紀の景行紀に見ゆり 龍神祠本
社北の北にあり祭神吉備武彦命 征の御供也 副將日本書紀の景行紀に見ゆり 龍神祠本
社北の北にあり祭神吉備武彦命 征の御供也 副將日本書紀の景行紀に見ゆり 龍神祠本

右王祠

法非と云ふ右神祇社と稱す 鎮皇門の内に入り祭神伊弉諾伊弉册尊
帳に從三位御田天神と云ふ 楠御前祠 右王祠の西に入り祭神伊弉諾伊弉册尊
是なり今室田社と稱す 神名帳頭注に西伊弉諾尊と云ふは伊弉册尊
と云ふなり今も非法なく古樹一株あり中名に伊弉諾大和本紀に勢田神劍入楠尊
奉納しりて楠ハ當社に由緒あり樹木之俗に子安神と稱す澤女此法多し清水

龍神祠

龍神祠のありしにあり今も非法なく古樹一株あり中名に伊弉諾大和本紀に勢田神劍入楠尊
奉納しりて楠ハ當社に由緒あり樹木之俗に子安神と稱す澤女此法多し清水

孫若御子祠

御田祠の西に入り祭神八鏡日本後紀に孫若
御子神ハ勢田大神神兒神也と云ふ

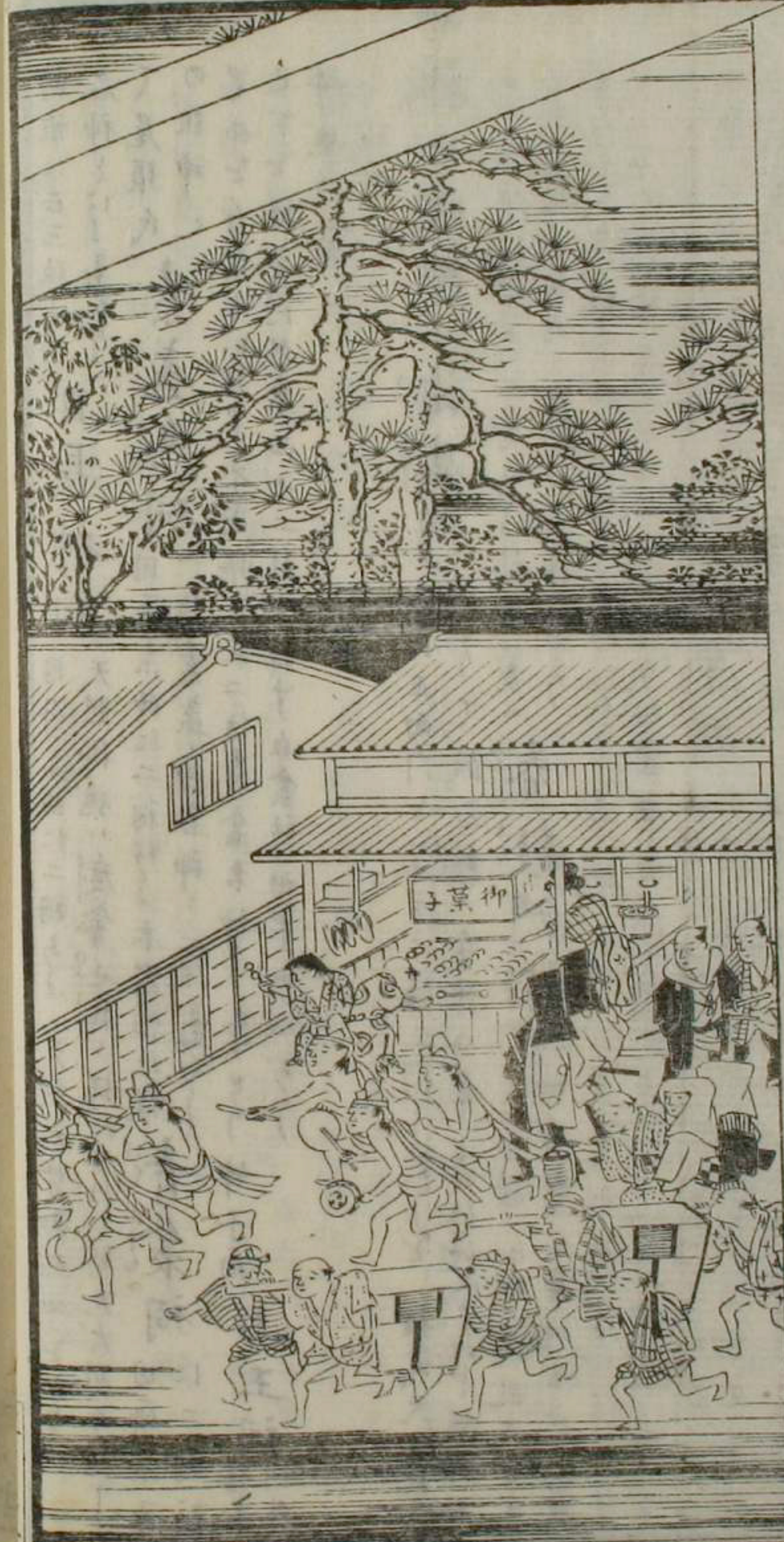
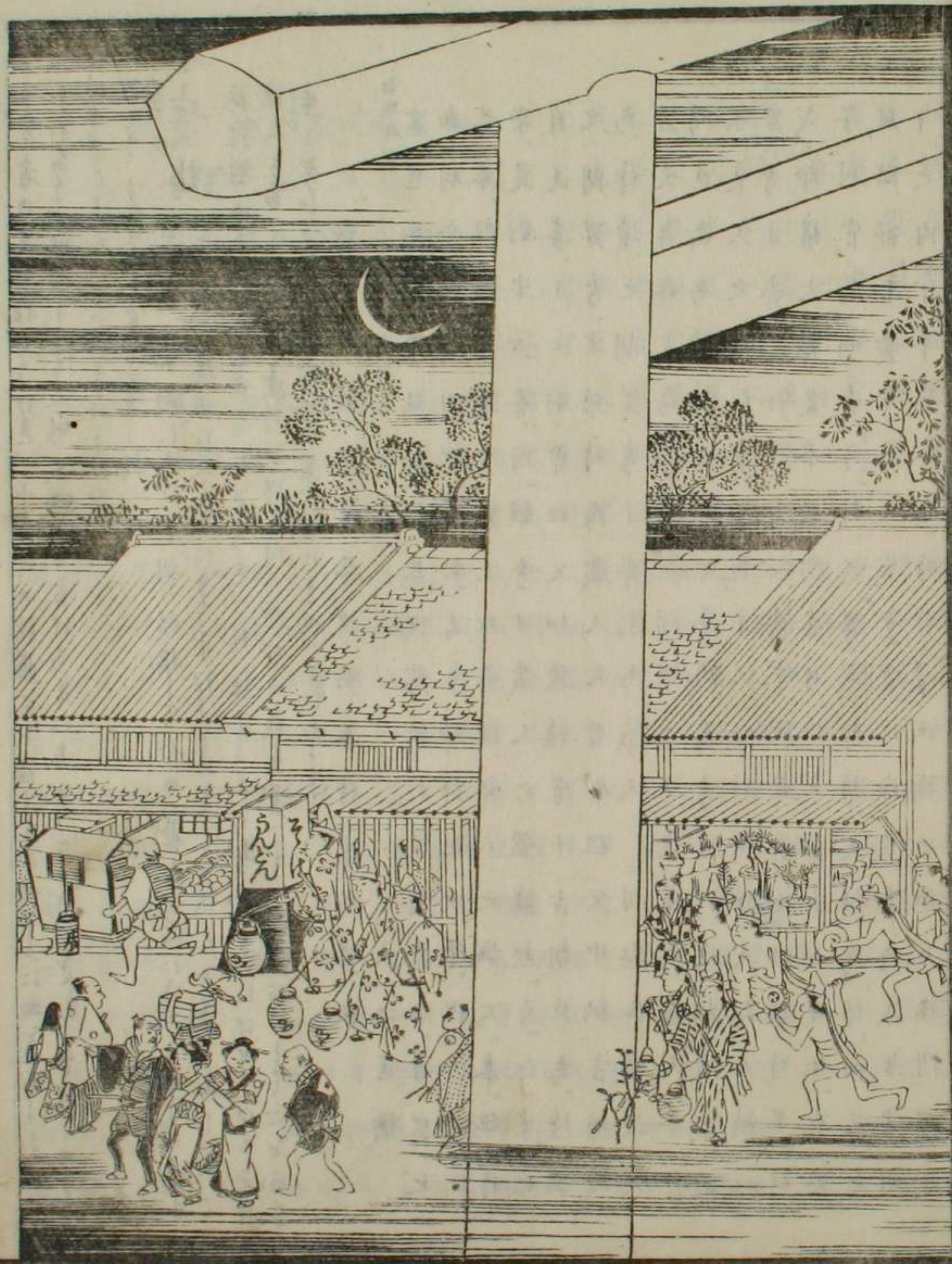
内天神祠

海龍門の
ちに入り

乙子祠

御
田

日本武尊の弟七の皇子稚武彦王あり瓊々杵尊 應神天皇と云ふ合世系
と云ふ延喜式に孫若御子社名神本國帳に從三位孫若御子天神と云ふ
祠の西に入り祭神弟彦連ハ天火明命十四世
の孫本國帳に正二位乙子天神と云ふ社あり 今宮 孫若御子祠の西に入り祭神藤原季
て及系云定十四卷系圖に藤原季兼康和三年十月七日尾張國目代之間卒年五十
八其子季範勢田大宮司從四位下依靈夢之告外祖父闍一流子孫讓與社官久壽二



一の鳥居
寒中大宮
夜参りの図

心配人七
子葉御
子雅

きり者の妻物狂ありけは山寺傍の陀羅尼と漏し加持すに物とはわらうけ
うてありが呪咀し人形又契田の宮れ鳥居に赤うろ釘をさかしを折くのり云
けり云々

不實梅

内天神祠の例にあり古樹枯稿し今今ハ葉あり俗には木の梅実を又あま
む神威の瑞福なりとてらうり求むるもの多し又此を蓮が高しといひては
梅此梅垣の也とて蓮草と見あまは祥瑞ありし一學覽草に記せり今も結の
法人もよく下塾の蓮州と謂ふ所ハ祈願の感念著しう開運なりとて心と面りて
索すおひとありぬ

熱田宮祈請男奉周明春侍中所望狀

右匡衡賜鶴版於顔巷促熊軾於尾州昔泥雪窓之
幽明今仰奠田之冥助去年神拜之次依代奉臨時
己奉臨時祭近日京上以前致懇之誠又奉臨時
祭是則中心有所願秀才藏人之盪起自江家始
自延喜則則曾祖父伊豫權守千古朝臣為侍詒
為侍讀之秀才為藏人即融御時叔父
左大弁齊光為侍讀之齊光又維時卿式部太輔
不衰天齊福江家不悅予又維時卿式部太輔
男秀才齊光任式部丞預祭之日維時卿式部太輔
式部權大輔爰奉周明春可任式部丞預祭之日維時卿式部太輔
子同官忌明春可任式部丞預祭之日維時卿式部太輔
風跡欲奉愛子於天官所帶式部權大輔為維時卿式部太輔
年之內令奉周奉臨時祭中匡衡始祖在衛門督音

人卿在昔淪落當州勤奉神官今匡衡不慮為刺史
亦奉周相從到此可謂江家之儒者有綠於尾張國
有契於契田官中匡衡自讚祭文俯地恐拜白

本朝文粹
國宰正四位下行式部權大輔兼東宮守士大介大
江朝臣匡衡誓首禮足白佛法僧言當國守代為
鎮守契田官奉書大般若不奉侍讀於我后何
能遂任秩當國之事莫先於大般若不奉侍讀於我后何
卷之雪窓謬茲尾州之風俗若不奉侍讀於我后何
必質朴之愚者得為州刺史若不奉侍讀於我后何
必閭素之儒者得為州刺史若不奉侍讀於我后何
雖衰於治術少貪欲身雖若之教文請僧六口伎樂
嚴熱田之靈社流布般若之教文請僧六口伎樂
兩三聲財幣王帛般若之教文請僧六口伎樂
徑日本長保三年八月至寬弘元年十月首尾四年
書之生功德以莊嚴三寶大滿任限亦滿欲歸故
天衆地祇三神四恩嚴我願已滿任限亦滿欲歸故
鄉之期今不幾神四恩嚴我願已滿任限亦滿欲歸故
寬弘元年十月十四日匡衡敬白

信長
也夫以當社大明神者累代聖主叢朝延鎮護靈神
海之邊城信長苟為平相國綿瓜受生於東
馬之家僅繼箕裘之業以速悔先祖之無道近憂

再游北行
我國治平自進神武再起致成功八岐蛇斷
四夷謐萬世秋清神劍風
江東吟稿
蓮葉舊社幾春秋草薤靈光射斗牛若索長生方士
藥須批世務日未遊
文集
君看千載古神宮巍然獨存張海東中藏服部南郭
蛇劍威靈赫，至今雄
玉童詩稿
空閑常獨徃何處是滄洲落日漁蝦市
晚凡吹短褐與霧隱行舟活得新醪去一登海畔秋
弊帚集
貝闕跨三鳥朱樓俯十洲偶因問神迹聊復想仙游
雲冷青萍氣露深珠樹秋題詩苦多景倚杖思悠悠
近荷圖文集
灑徐福張陽題露西瑤宮貝闕瑞煙低太真廟畔紅泉
虹霓斯福前綠草齊珠樹花雲中路不迷
長崎紀行
海道長狄入官怪無僂骨五色雲中窟赤水
五雲搖曳田胡馬渡關門功高倭武尊清廟巍然東
草應知此地是蓬萊
南溟縹緲古蓬瀛雲擁祠壇五色明威德林竹屋
如

叔世之極亂再欲興帝都衰微治國家之擾亂致君
於堯舜救民於塗炭之外素懷非他矣中于茲源義
社元燒散民屋任我意而無不慮何者武命不
却用斧柯今勢既如葛藟相連無奈於強手彼多勢及
萬有餘此無勢子咬缺三千不非類當社力爭得勝之
當車輻同蚊無勢子咬缺三千不非類當社力爭得勝之
乎傳契連誅日本武之古東夷於必矣仰冀水火之所
合符契連誅日本武之古東夷於必矣仰冀水火之所
兩石隨一宜施靈驗八劍之擊及斬衆賊之有主滿所
願伏義兵全非私用私欲而為起王道之衰救民也今
此危也三年五月十九日願書如件
惺惺文集
五雲隨望眼過蓬萊閣下鎖仙城
去海藏門前雙波
丙辰紀行
東征功訖凱旋時宿所曾徵官黃姬誰道馬嵬坡下
鬼一朝來此立靈祠
癸未紀行
通林經過拜奠舊日奕松樹瑞籬前閣宮靈跡尾張
國社帳名延喜年桑城將軍建勳業李唐天子覓
神仙威嚴永作邦家鎮八劍霜寒東海天
山崎開齋

在高門長鎮 帝王城

契田の宮といふ所にほりて、中畧林まじりて所のよめあり、林いしてまゝに風よまらひておのまきもいひあり

家集 翁の香に林此れやまらるん表の本風も吹まらるなり 赤條陸門

明日香集 ちつまつたのたむけふみりかの中は契田のて 冬儀雅終

支布 屏風に六月神の社の本柱に人たり 倭文字

東宮紀 尾法園あつとの宮にいりぬまゝ 一條院の清時大匠衛上ら博士たり

長保の末にあつて、あまの宮あてたりけるに大般若をかきては宮うて、ほまをとりけり、おまに我れお腕にふちぬ、任限又ほり、あまの宮いして、おまのくまら、あまの書いりて、あまの宮いして、あまの宮いして

思ひわさあつて、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

女月をさうのあまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

祝よりいりて、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

新しき我あつて、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

夫木集 やまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

覽寫上記 承亨四のて、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

程もはあつて、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

家集 新けりのほりて、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

西三條 貴枝公

中京 師光朝臣

阿保 堯孝は家

ト部善那

左近衛権中將 若名為満

右近衛権中將 若名言信

飛入式部大丞 清原秀實

美濃守 源康綱

右近衛尾張 宿禰是仲

沢菴和尚

西園寺前 内大臣 権大納言 實種々

花子

吉川惟足

冷泉為村々

東園記 あつて、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

我もあつて、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

阿蘇和歌集 契田のやまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

後醍醐天皇 契田の社いして、あまの宮いして、あまの宮いして

天下のハ、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

契田は、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

契田は、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

契田は、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

契田は、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

契田は、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

契田は、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

契田は、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

契田は、あまの宮いして、あまの宮いして、あまの宮いして

神々の志をいれ流海すのりませあも換田の神の淨社 冷泉為則に

まろいあけ初あやうこの日の本れ先王とあやうみつきの宮 彦橋流定に

ひむく世必くくむきてくろきハ換田れ宮に志のまらひまに 本居宣長

核衣まらつ作くと迄を思てめへ換田の神のまらう 春嶽左京大夫

作くよりあ換田の神あハ核の如きれ道中うあん 外山宰相

神のまら換田の宮れさくはとハカとらすそらんまに 先實に

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 稻掛大平

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

雲見山 大宮の〜ら表の由

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

とまら田のまらうらあやあう代ハくみ換田の神のまらふ 鈴木朗

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

蓬菜 内天神社の地と蓬が鴻とらふ宗祇の秘中抄に蓬、清くハ近江の竹生侍尾張のりつ、龍紫のちけ侍とさしてりふりあ、津ハ龍宮とさるせう

本朝神社考に本朝指為蓬菜者三富士熊野換田是也とらる又東海瓊華集に秦の徐福が海に入る三神山に不死の菜と求り海島とて終に還らざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

りざりハハはあつふふ

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

芭蕉△ 芭蕉△ 芭蕉△

楊貴妃の古事

日東曲

明人 宋景濂

玉環妖血汚
寰中豈有靈
祠祀鬼雄
莫是仙山
真縹緲雪
層花貌主
珠官 國有楊貴妃祠



神さいしつち新さき松杉よき見了山はいくち絶れん

刑部少輔 平雅連

楊貴妃石塔の址

けさバ契田の伴神々に楊貴妃の石塔の址にありしを貞享三年伊賀守時隆の時廢絶して今
存ひしが貴妃馬堀りて失われしが忽ち本園に官へゆり移ししが一五百年來の古書
にもとありてまろく、俗説に古松の長恨歌抄に彼方士が蓬萊山にて貴妃に召らる
ハ列以契田の伴神々にありて大永三年の樋河上天淵記に李唐玄宗慕權威欲取日本于
時日本大小神祇評議給以契田神請給生代楊家而為楊妃乱玄宗之心醒日本奪取之志
給誠貴妃如失馬堀坡乗舟着尾及智多郡宇津美浦歸契田官給云々、曉風集に尾張
之契田大明神則楊貴妃也畧在仙傳拾遺も、又本朝神社考にくりく、之を天淵記の
説に同し又楊貴妃の珠簾を西にり、と、魚山帝の勅によりて信念此松名寺に納り、
四國雜記及び新編法念志にん、

翰林五風集 九日 謁契田楊妃廟
謹白 真妃 若有靈 開遺廟 戸 試應聽生、合託 鴛鴦
菊 天寶 海棠 何故 零

以治の顯言梅華無盡歲にハ重陽謁契田楊
妃廟官貴有石塔國名楊妃廟とあり

熱田例祭

熱田の神事從昔ハ年内七十餘夜及びハ中世廢絶せしむるにハ、
抄江別當の條にもまた記して活人の後、

大宮八劔宮内院外院供御調進

正月元日 同日
五社の行ひ 今日祭の社のより始て二日ハ劔宮三日松姫
社四日日割社五日南新宮とて、
社附の外人のこととつゝ、
洗河とてハ式終りて使おとを之に授子供らるハ是と千罪古罪の後、

踏歌の神事

正月十日午の刻
 人各改所にあひて
 衆人十人冠に接れ
 依り花と挿以一倍徒
 十人山吹の作りと花と
 加さず色は留とさき
 笏指子と探
 候ことしめ法
 白門のあまて
 俣馬樂とさし
 早て法花門
 より海入大座
 きて卯杖舞
 みくひ舞舞
 て倍徒一人計
 中子の冠と



香

着て鼓と共
 おづま所祝詞
 所踏歌の頌
 とよひて世に
 ふい武早て官
 福ち支花舞の舞
 いらり又大福思
 大官日お仕る
 樂もいらり

萩野重道

衆人乃ら
 ほし
 小忌の油
 くらまのよ
 以は喜のころ



○大宮八劔宮外院供御 同五日 拜殿へ侍従十人むく十日

○大宮八劔宮供御 同七日 七種 同日 夕方大福田の社で馬場氏をさす

○踏歌神事 同十日 大宮より始る八劔宮大福田社で終る 五月三日の朝舞人瀬

○名残の翁 同十日 夜の刻大福田のお殿で宮福大夫翁を舞ふ

○政所封水 同十日 社輩政所におく芝菜のむちを焼く 治産を飾るの式なり

○御的射の試 同十日 海老門外より射止中筋祝部 同日 大宮八劔宮小豆御粥調進

○御的射神事 同日 海老門外に六尺余此大的とあり 射人八人 中筋二人 祝部二人

○鈴宮的射 同十九日 義及び開園大夫荒木の弓に依りて射す 白羽此矢をつひて天より一筋地に一筋的に

○御的射人別定 同廿二日 定む事之次に依りて御の庖丁なり 是故実多し

○大々神樂 同廿八日 移殿と勅使殿の間に舞臺とす けしと執りて中筋十人 祝部二人 双方

○祈年祭大宮大供御 二月初五日 所より伊保所へ御願ふは悉に阿波手素より 藪の香お

○八劔宮大供御調進 同初五日 勅使饗應規式 社より本社供御調進 進古ハ以日

○御田社田植祭 同初五日 勅使饗應規式 社より本社供御調進 進古ハ以日

○八劔宮内院供御 三月二日 草の儀 同日 大宮内院供御 上

○舞樂 同廿五日 當宮におきて舞樂の起りハ上古より此事として 路洋あ 庚申磨院で

○花の頭 四月八日 勅使殿に飾物の居りて 御代補代の 格のありて 巻布なり 吉例のや

○白鳥社浮鳥社供御 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

○大宮八劔宮供御 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

○御代補代両頭人移 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

○軍祭出仕 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

○大宮八劔宮高蔵官 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

○大宮八劔宮 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

○大宮八劔宮 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

○大宮八劔宮 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

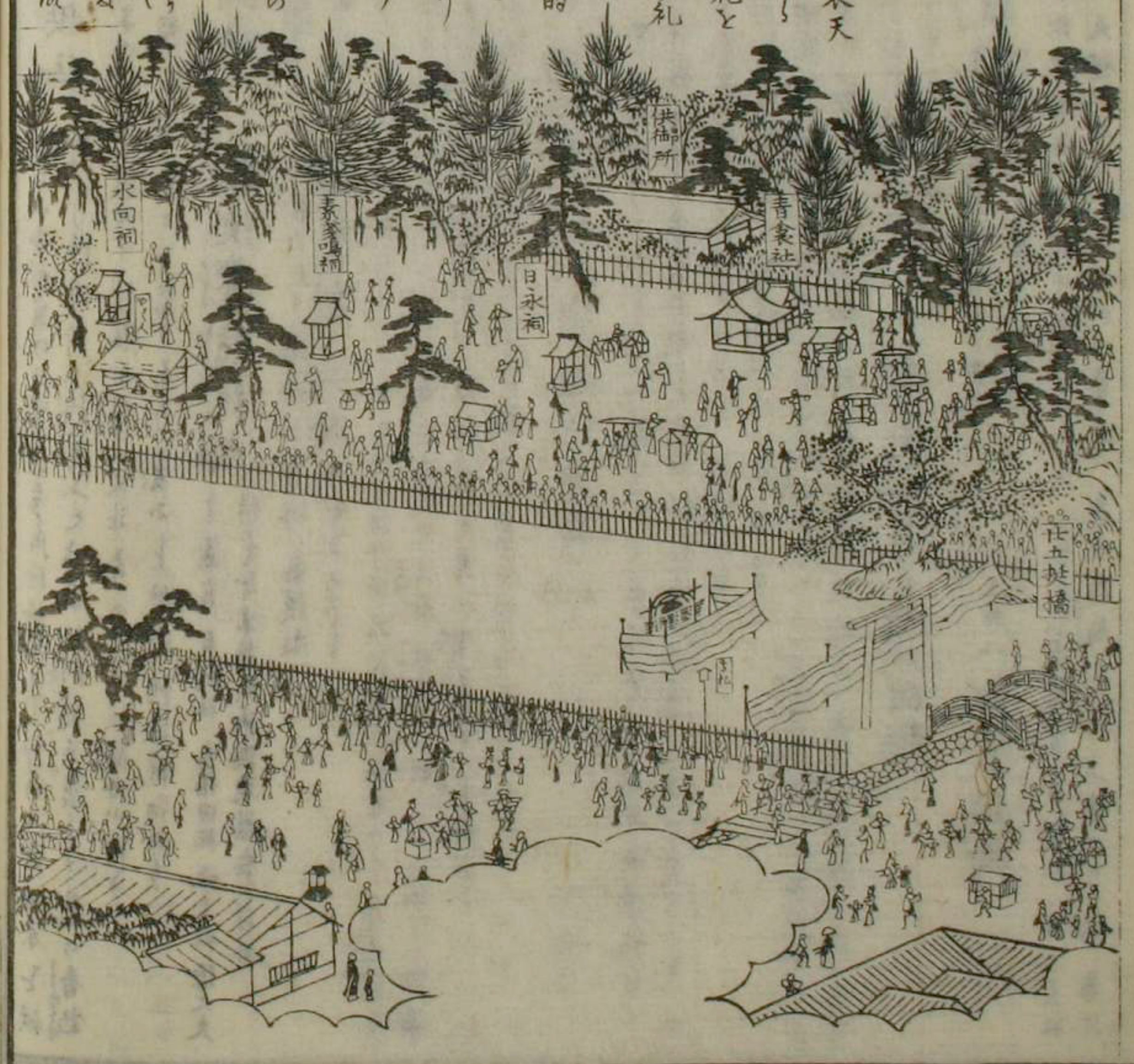
○大宮八劔宮 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

○大宮八劔宮 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

○大宮八劔宮 同日 格のありて 巻布なり 吉例のや

御射の神事

隆尻に契回津宮、仲哀天
 皇此考廟中て他の皇あり
 此 御神を祀り 朝廷の礼と
 びくありきるた小浦、多対礼
 等の式古よりまことばい
 又或流に昔、内裏の御的
 の中りと尚宮に中りと
 合日一事ののり 都より
 告事、宿使と尚宮より
 奏問の使と江州中へ
 を上例たり 双方より矢の
 中りと合まるとて此地と
 矢ましく初いとわ 夫の中
 使のま、この外事ハ七十金友
 の内より神に大祭あり、



中筋ハ一代ニ一處ありて
 若 外事は能く射
 ちて其時ハ社事と除り
 是即産に出奔する事
 あり古ハ腹ともきり
 一ハハハハハ今射も
 せる家の赤飯が大
 地へ持てに大鳥を
 走らるるにハハハ
 だしく又障
 ちくハ外事ハハハ
 時ハ足あの人
 かの的と奪い引
 破りおゆるて
 家れさうとハ



香印



報一々安田中と走り
 巡る勇りさ実には奇
 祝あり昔ハはるかに
 高蔵實くはは
 今も中
 鷹の射を武人
 早渡に彼實へ
 赤實す最松幸
 あつゝ
 以日小浪り
 て射はれ
 半蔵鳥帽
 子持衣の下に
 白衣を用いず
 扇の半目と着
 ぎハ中より
 のあひあひ
 上



御的射
 の式平
 射のち
 射もさ人の
 うら四人と
 各者竹とく
 造る華者
 のみもの
 番色女子は
 若く男叔十人
 早く早き挙げ
 色もつゝやあつゝ

其二



印地打の古園



高

的射早の

てんあゆみ
其のと奪取
守りにせんや
けしひ果にハ碓とす
今い名古在乃在御の
考ハ北の方勢田の者ハ
南につと下馬橋と中
みへきし江に怪人
多負人りあつて
石我々地ホ
碓風士記本に凡々
碓越、善中記元禄八年
同十年此記正月
十五日換田神事に
存名高事此
童男報告に
いひると祀
昔は園神の
子と今ハ
純

下馬橋



大官祈年祭
夕供御

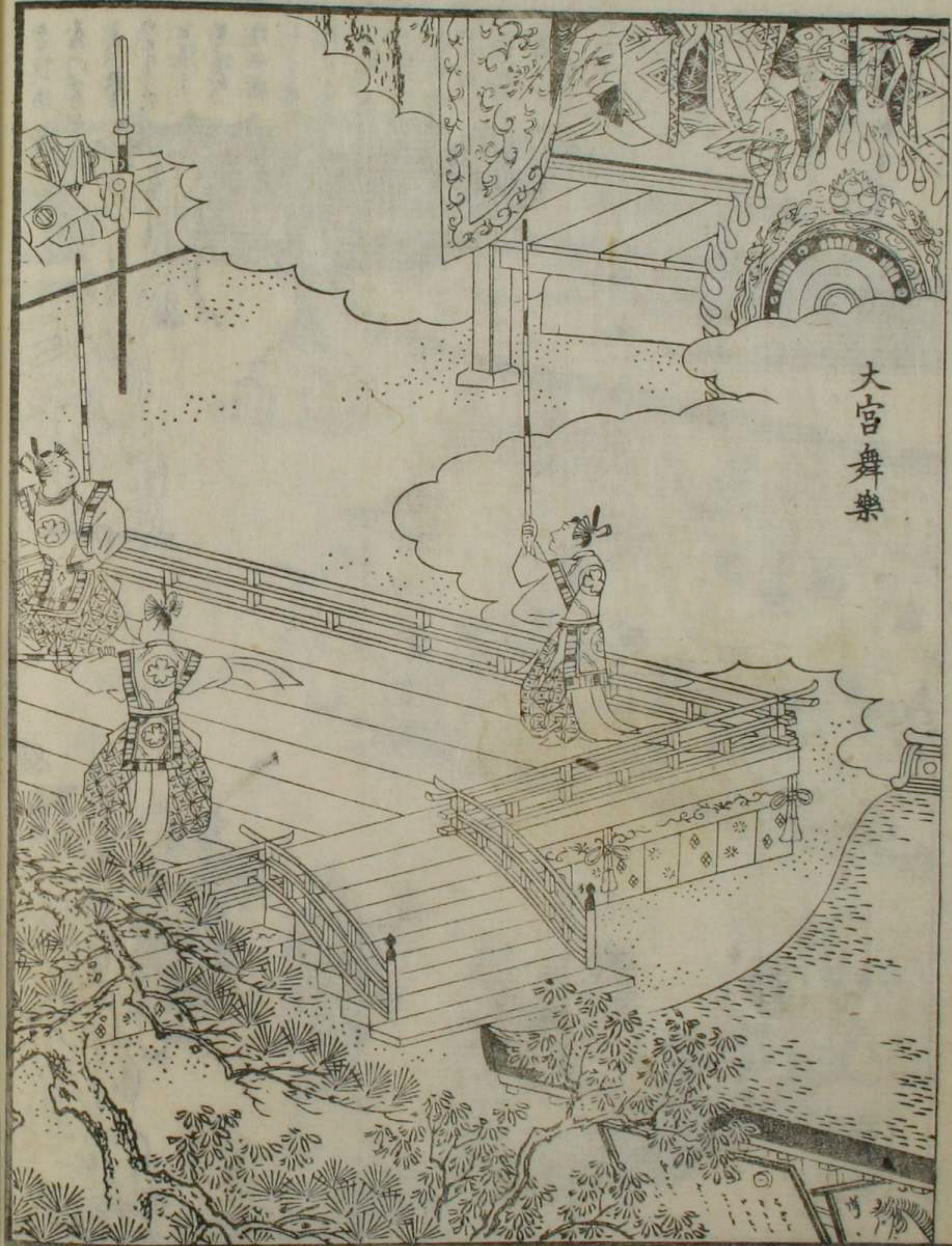
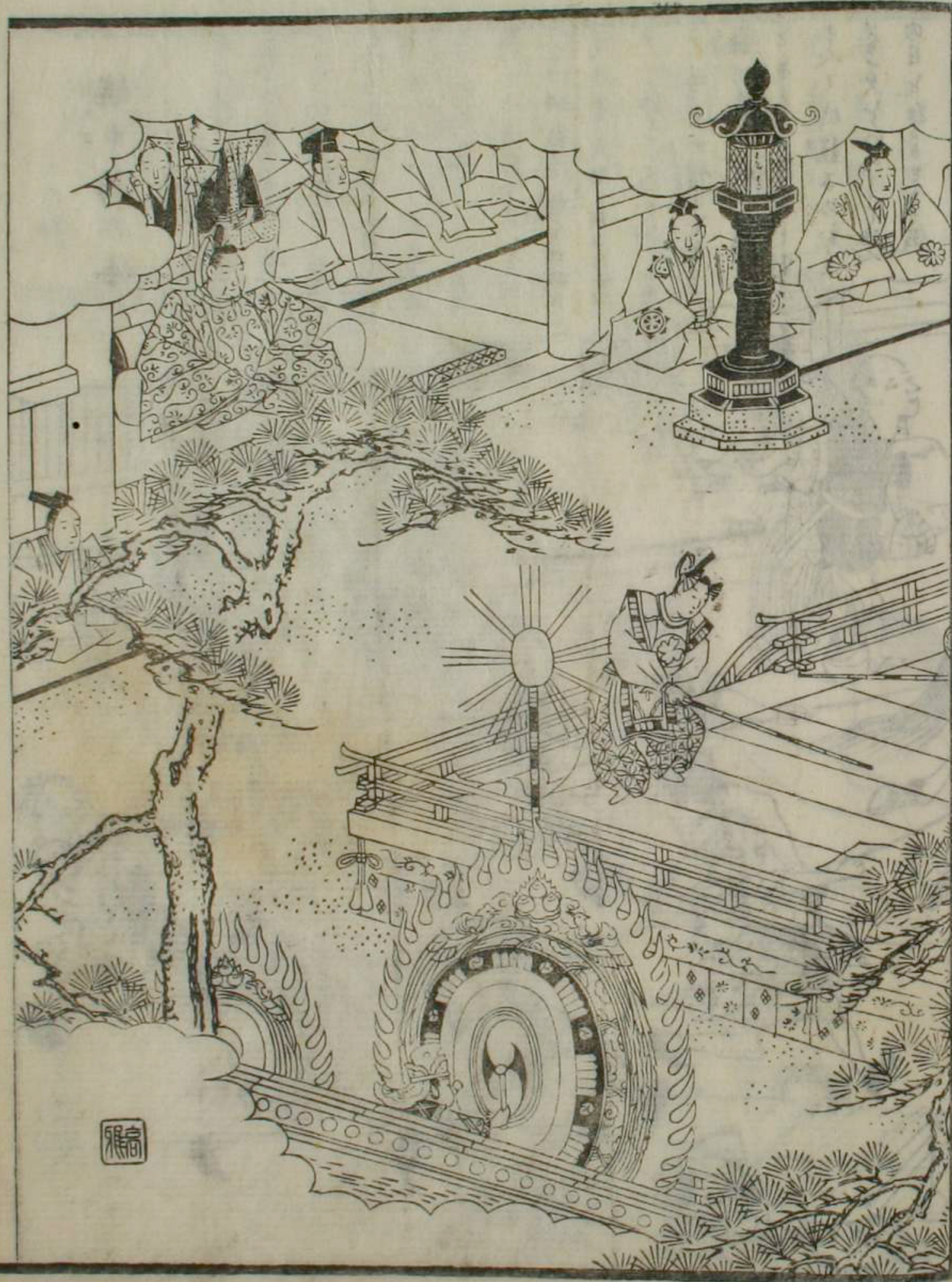


儀に巳午比濟神
奉りて夜神
世と入らる座
と清供所
大宮の湯屋
西日所此
法門と入
内庫
持供
はし
樂所
樂と奏
田清氏
祝詞と
座
豊の頃
と大
か



き記海
藤門の月外
のり大
と張
馬場
陸水城
あつて
清り大
を排
て路
む津供
の丸
若松
掃
乃と
社軍
本仕
神
お八
二月
二季
務
年祭
新
會
元

宮



端午馬の塔

所々及び在るも是と
 試す事多し其内
 在々の馬ハ戦所々の馬ハ
 居候は馬の改に本馬候
 馬の二品有り本馬と
 三行列表を以て其
 所々の台と先に立次
 に子供救多棒と於次に
 居る者大勢長刀と
 是れ馬の傍りと
 鞍のうへに種々の物
 と是れと標具と
 立てては競子の
 苦勞とては
 の目と驚くは俄



馬とてハ裸馬に
 薦と巻細杖とつ
 け其候保と
 いふは者
 流行する風
 をとて頗
 是皆桶
 是れ
 大次
 畧
 田
 海
 山
 の
 塔



玉
 西

貞觀十六年守部宿祢清信撰りて
寛平二年左京村攝重修の古書なり
古寫日本書紀一部
世に斐田日本紀
と稱す卷裏に

據紙和分と書す正三位為重少孫元可藏阿弥陀佛十人
近年は和分と書す取令刻りて斐田日本紀卷背和歌とて世に流布以奉納此
副文ありて奉納斐田太神宮内院日本紀用卷十五卷并一卷依權官司祭主尾張仲
宗所望四條金蓮寺四代上人御奉加之圓福寺三代嚴阿所申沙汰也承和三年丁巳霜
月四日
奉納古連歌卷物
應永三十年十一月十三日百韻延徳四年卯月十九
日百韻天文十六年十二月廿三日百韻正保二年八月
十一日百韻
和歌懷紙一卷
慶長九甲辰年三月十五日詠り奉りて春日陪燕田社
室前同詠社頭松傳歌後人ハ左中將藤原為滿以下十九人
なり其内比多
法華經一部
弘法大師
同一部
日蓮上人のま
經一卷
小野道風のま
と知らずその介和儀の古写古印刻比書籍
佛經甚多其百卷并一巻にことと署す
春敲門額
小野道
風ま
蜘蛛切丸太刀
銘吉
巻本に係れ老吉老の太刀と云々殊の故
鷹丸太刀
備前助平の作助平ハ一條天皇の時
性と斬りし一記せしハハ太刀なり
彼大官の尊あり由緒に於て大官因家に傳りて天文七年九月織田家美法此
毎及合戦の時千秋紀伊ささき刀と佩て稲葉山にて討死せし事記方
に後りしものらぬ多し長秀の長刀と云々景清と云々義山ハ行月首裁りて
も一同とありて考もす月日
不思儀の長刀に製せしハハ社社の太刀也是巴と
母比老の考もす月日
不思儀の長刀に製せしハハ社社の太刀也是巴と
信も記等此古書に云々
斐田國信と稱す
三條宗近太刀
宗近ハ一條隆の弟内の人か
又三條吉家の太刀なり
天國太刀
銘
斐田國信と稱す
三條宗近太刀
宗近ハ一條隆の弟内の人か
又三條吉家の太刀なり
天國太刀
銘
先忠太刀
銘
末國先太刀
銘
宗吉太刀
銘
及應永廿六年六月
十七日の奉納あり
吉

光太刀
銘
正助太刀
銘
友成太刀
銘
末國俊太刀
銘
及天正十四年七月
月七日の奉納あり

則國太刀
銘
實阿太刀
銘
廣光太刀
銘
の奉納あり
元弘三年十月一日

景光太刀
銘
神足太刀
銘
安次太刀
銘
重道
宇佐神
足
包永太刀
銘
及

太刀
銘
國林太刀
銘
豐後行平太刀二振
銘
末國久太刀
銘
及

信國太刀
銘
備前介成太刀
銘
國友太刀
銘
及六月日の文字あり

嘉吉元年十二月日大官司十秋民部
少輔藤原朝臣季貞奉納の銘あり
備前介成太刀
銘
及四十七振ハ世に數ひあき空
劍のハ百三十余口の清き刀なり世に傳へる其空なり
の自書太刀ハ稱すハ越前國信人ト多し其筆ハ野太刀あり
國君孫敬之け寄附近喜太神宮式
三笠琵琶
一面
古面
數多あり今
及長層官替に鷄尾琴の名あり
三笠琵琶
一面
古面
數多あり今
治承年中
瑠璃壺
古鏡
燈籠
錢轆轤
駒角
日本武尊神像
の所
古十種にあり引墓目簾又古書古西の簾也色紙經案紫石此双ホの文具
と云々集古十種にあり引墓目簾又古書古西の簾也色紙經案紫石此双ホの文具
古笠古鏡古壺の樂器にありはて宝庫に充てし所莫太に

神領
何美濃の三國のうちに神領の地あり
天武天皇比朱鳥元年六月八日一萬八千町寄附りて正應年中は尾張參
の神領に漢と云々此祝詞の文に神領一萬八千町と云々是古傳の語也
日本後紀に天長十年六月壬午詔奉授坐尾張從三位熱田大神正三位并納封十五戸
祭式ノ凡鴨御祖別雷斐田の三社の神祇社用之外用ありて

神領
何美濃の三國のうちに神領の地あり
天武天皇比朱鳥元年六月八日一萬八千町寄附りて正應年中は尾張參
の神領に漢と云々此祝詞の文に神領一萬八千町と云々是古傳の語也
日本後紀に天長十年六月壬午詔奉授坐尾張從三位熱田大神正三位并納封十五戸
祭式ノ凡鴨御祖別雷斐田の三社の神祇社用之外用ありて

春敲門古額

小野道風筆

二尺八寸五分



舞樂古面

陵王



鷄尾琴

十三絃
惣朱り

四尺六寸



錦

納曾利



還城樂



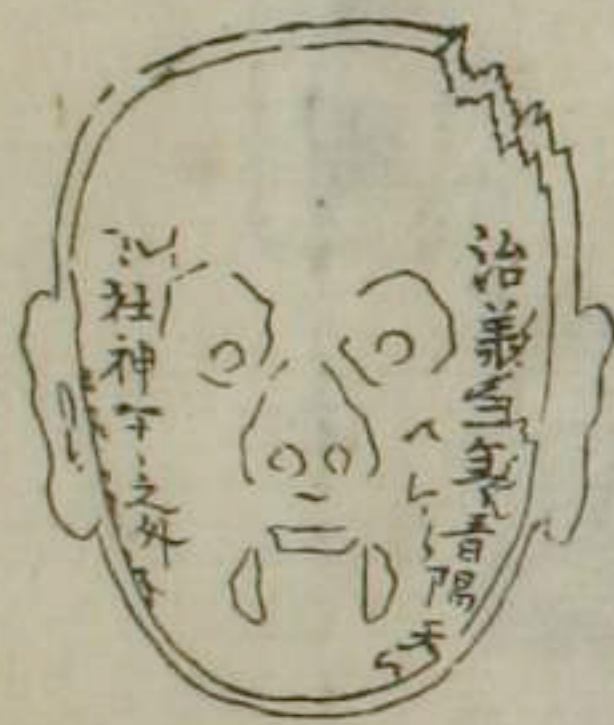
崑崙八仙



二の舞



同裏



裏書に記すも朱うら...
世にふるり文字...
多々れも年号...
はと天保の今日...
余年あり古物...
弘安元年...
至て五百六十...
治承年の...
時と...に...

雅縮園

熱田社享祿年中之古圖



三雅縮摹



右の圖真書に云 享祿二年己酉二月吉日生國越州蒲原郡住

大勸進順海筆者 加野和泉祐筆資信印

按了に加野和泉は武清の時清改に任せし画者ありし

瀛津世襲命

天火明命四世のついでに清津の世襲足媛命 孝昭天皇は清津に立まつた日本書紀舊事紀本に見えり

建田背命

其女大海媛ハ 崇神天皇の御孫に立まつた日本書紀

乎止與命

尾張の國造のついでに建稲種命官筆媛命の父あり同書古事記本諸書に見えり

尾治尻調根命

建稲種命の子あり 尾張天皇御宇に大臣とありて供奉し調真若刀俣命と尾細真若刀俣命と記しつゝ調の字を細に誤りしに尾細根命と

して大山の針綱神社の御孫と云ふの尾細にけりて尻調ありて尾細根命と別の名に火明命十六世孫尻調根命と云ふ古事記に尾張連之祖伊那那陀宿禰之女志理都紀斗賣と云ふりしに此系ハ友人中尾義稿が記す

尾張連草香の女目子郎女

純舒天皇の后に立まつた日本書紀古事記に見えり

尾治連若子磨同半磨

後日本紀大室二年 太上天皇參河國に御幸の時に尾治宿禰の姓を以てし

尾張宿禰大隅

日本紀 持統天皇十年五月壬寅朔己酉直廣肆の位と授け水田四

の事と奏す者には五位上尾治宿禰大隅壬申年功田三十町 瀧海朝臣諱陸之際義興警蹕潛出關東于時大隅參迎奉導掃清私第遂作行宮供助軍資其功實重云云と記す同紀天應二年四月癸丑の條に尾張宿禰大隅息稻置等賜田一町記す稻置大官司家譜尾張氏系圖に稻置見しと云ふ或ハ稻置公稻置君と古記に記せる人あり

尾張宿禰手已志

後日本紀に和銅二年五月庚申尾張國尾張郡太領にて外從五位下と授けり

尾張宿禰小倉

後日本紀天平九年二月戊午の條四十七年正月乙丑の條に位階と授けり

從四位下為尾張國國造天平勝室元年八月乙亥從四位下尾張宿禰小倉卒と云ふありあふ此女ありて宿禰に在りて宿禰に命婦と云ふ勤勞によりて國造と賜りしに後日本紀に記す所は女叙位のうちに列して宿禰に命婦と云ふ人ありと云ふ世の書にも尾張宿禰與負の一名小倉 元正天皇御世尾張宿禰に仰國造と云ふ男あり

尾張宿禰宮守

日本後紀及び類聚國史に延暦十八年五月己巳尾張國海部郡主政從八位上刑部親由言權塚阿保朝臣廣成不憚朝制

禮養鷹鷄遂令當郡少領尾張宿禰宮守六齋之日獵於寺林因奪鷹鷄奏進 勅須有違犯先言其狀而後慢國吏輒奪其鷹鷄特杖解却其任と云ふ所は神和十四年嘉祥三年等此官符に國司郡司が神吏と稱すに神及に神宮寺此終記念了關しと云ふを致して祝部宿禰神狀と奉りしに官廢ハハ官守

尾張連濱主

後日本後紀及び類聚國史に兼和十二年正月己卯外從五位下尾張連濱主於龍尾道上舞和風長壽樂觀者以千數初謂船背之老不能

起居及于舞紳赴曲宛如少年四座命曰近代未有如此者濱主本是伶人也時年一百十三自作此舞上表請舞長壽樂表中載和歌其詞曰那那都義乃美与尔萬和倍留毛毛知萬利止遠乃於支奈能萬飛多天萬川流丁巳 天皇召尾張連濱主於清涼殿前令舞長壽樂舞畢濱主即奏和歌曰於彼那度天和飛夜波遠良無久左母支毛散可由留登岐尔伊天豆萬毗天年 天皇賞讚左右垂波賜御衣一襲令罷退同十三年正月戊辰石外從五位下尾張連濱主於清涼殿前令奏舞于時年百十四帝登其高年從從五位下 豐原統秋、針原抄に濱主兼和三年四月遣唐使に付て唐朝に渡りて本舞の流傳と云ふ龍首底と云ふ同古年八月ゆゑの外西道孫に感了也と云ふ河海抄の流傳の巻の後に 高野天皇まゝの舞曲を傳へし濱主は前より奏りしに濱主に渡りし舞田の伶人ありしに今に舞樂を傳へし家數

十砂より凡摺田の初代といふ

尾張成重

台記に文安六年七月廿三日百尾張成重仰云汝年老家貧勤勞無懈以彼國有勢者敬禮を深今貧賤向彼國昔從者必有蔑如何況去神主職之日誓言不還補此職不復向此國矣何貧不利愛先誓乎敢辭之余深感此言故書之

惣檢校一員

尾張氏の権官司うて世々馬場氏と稱す大官司負信は二男信賴馬場家庶忠 土沖門天皇此御守正治二年庚申前將軍源賴家下文と賜り其孫奉信大官司に任ずるにせり世々尚書後官司と稱す 後柏原天皇の御時におり信賴の嗣系統た

大内人一員

守部若祢尾張氏同祖より今大喜氏と稱す此家本古く朱鳥元年海部郡司守部彦谷とぞく官守十二人の長大内人職とす摺田本紀に記す

神職

栗田氏 新撰姓氏録に 孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後裔と云る

大原氏

敏達天皇の皇孫百濟王此後あり同書に云る

長岡氏

同書及び皇流伝運録に 桓武天皇の皇子長岡成延曆六年賜長岡朝臣姓と云る

磯部氏

新撰姓氏録に磯部臣仲哀天皇皇子登屋別命之後也と云る

林氏

同書に林朝臣武内省祢之後也と云る

松岡氏

日本武尊東征の時隨從り士帥也國史に其姓名と岡とあり

三國氏

若山氏 鏡味氏 菊田氏 峯松氏

木津山神宮寺大薬師

海邊門の外二十五挺橋の西あり片所あり

當寺ハ 仁明天皇此

勅建りて傳教弘法お大師の開基也社僧如法院の寺務

和和十四年三月七日此太政官符に記す

靈區あり累年此兵乱に衰微頽廢せり

再興一尋年中十間梁十三石半此瓦葺佛殿と建せり

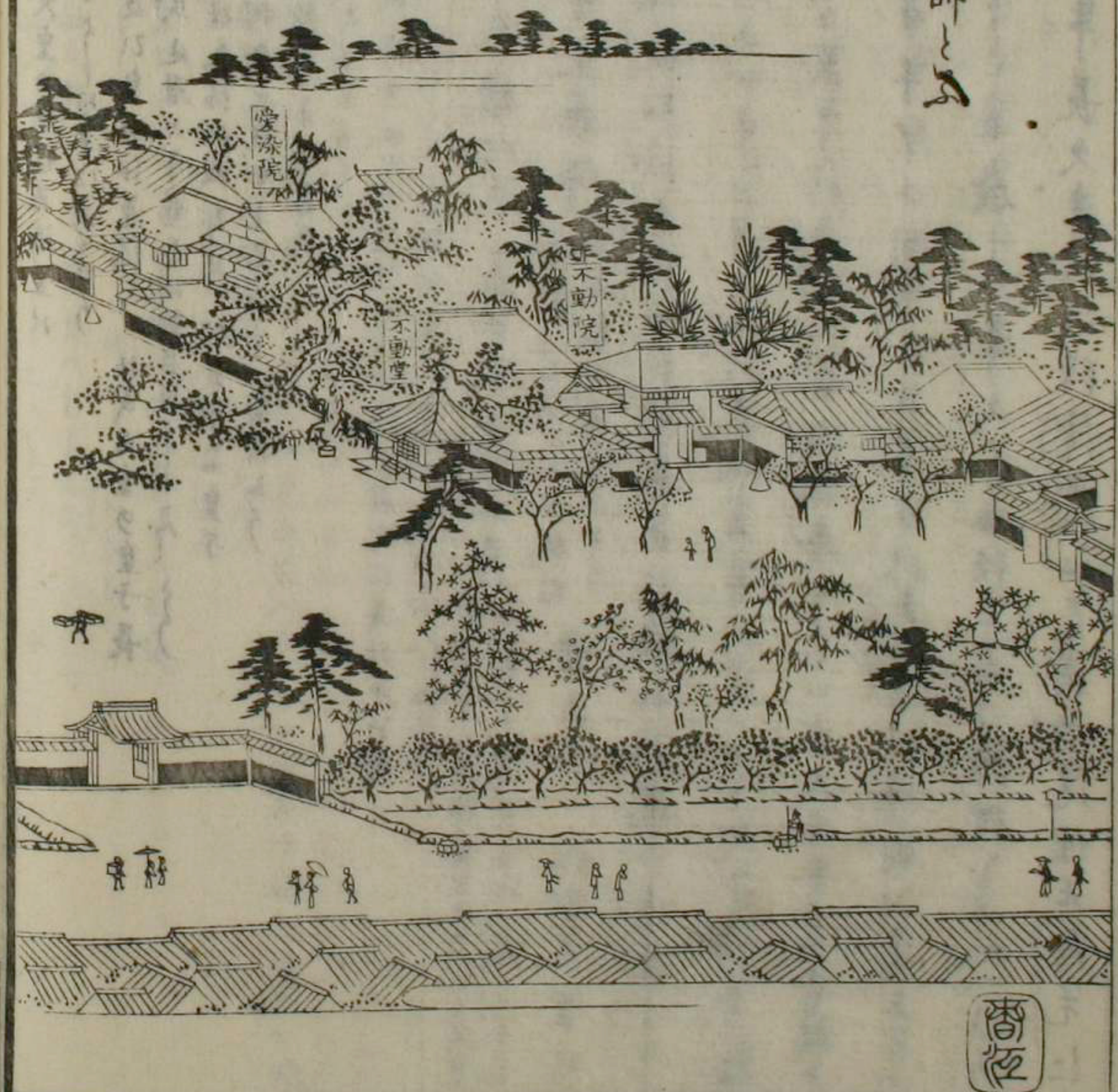
色々々々衰廢一々々々久く無任とあり修理と加へり

一に元禄九年長久寺此僧隆慶江戸漢持院僧正隆光に

神宮寺

俗に大薬師といふ

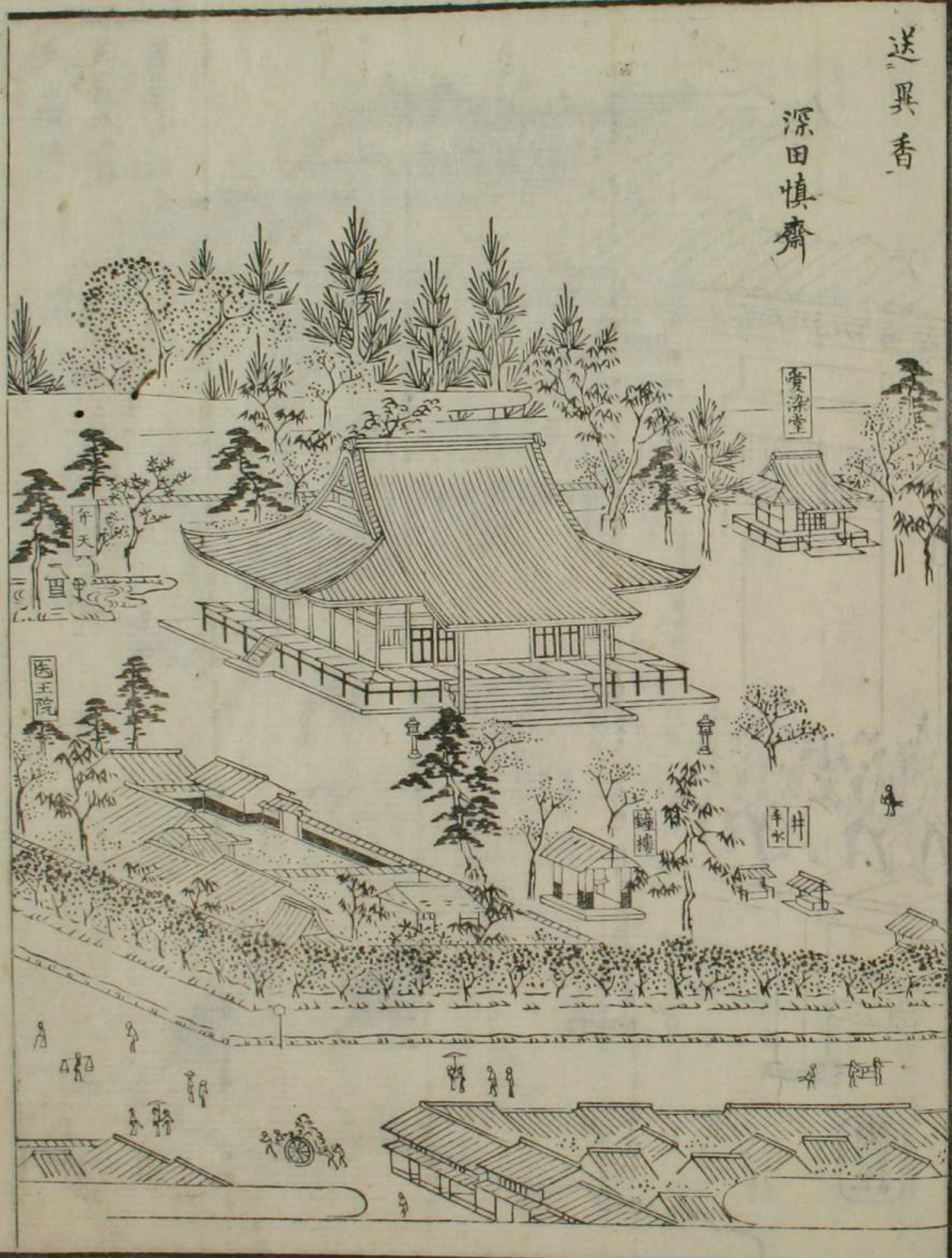
高閣左邊双
小堂一醫王
佛二明王茲
中自有春風
別不送花香



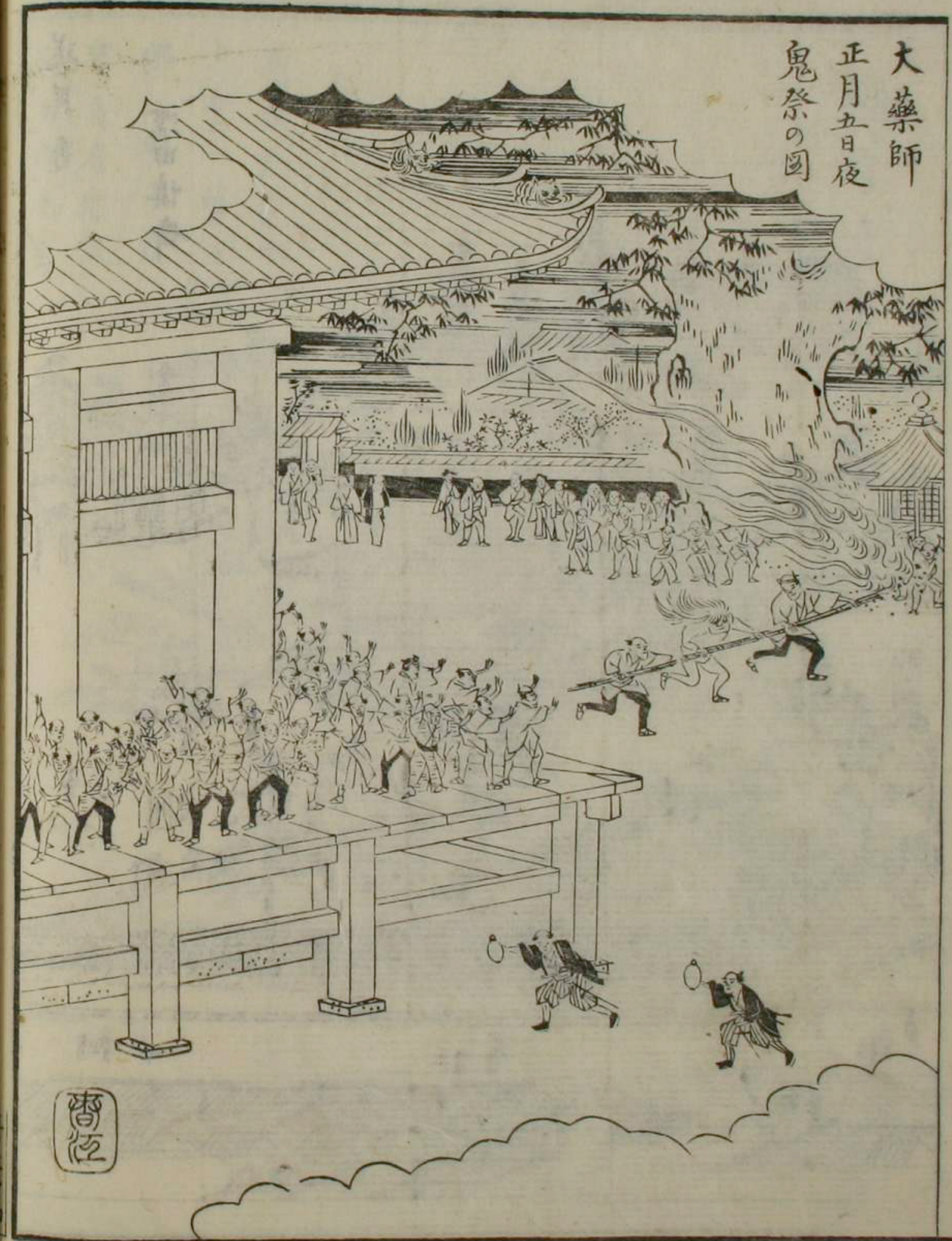
香

送異香

深田慎齋



大薬師
正月五日夜
鬼祭の圖



法縁所により陸光吹奉りて 將軍家に奉りて 神宮寺再建

淨免許と得りて 國君も治容し給ひ同十五年堂宇と修造

不動院愛染院と外より境内へ移し 隆王院と再建して 恒持と

まらま 齋観に復せり 後へて 山号とて 龜頭山ありとを比今

ありて 永和十四年三月七日の官符に置神宮寺別當 本尊 兼源公家の子孫

蔭孫正八位下御船宿祓木津山に據まり 高十二丈一尺八寸れ大像あり 腹内に弘法大師の坐像あり 又十二

神將四天王等の像と安置し 沙石集に文永の改鑿田の社を以てり 又下手男

十一月十五日縁にあり 前掲は 是れ 兼源寺の坐像に 祈念せり 又

の年三月十五日の夜に傍一人來りて 目を叩きけり 是れ 兼源寺の坐像に 祈念せり

同 不動堂 本堂の例にあり 此堂とて 八劍宮に境内にあり 不動明王

元祿年中 兼源の時に 弘法大師の坐像あり 八劍宮の本地佛と稱せり

愛染堂 不動院の北にあり 愛染明王の坐像あり 大神宮の裏

鐘樓 延徳元年に築けり 古鐘ハ今名古倉の

月十六日保科彦の孫 陸奥會津の山中の樵夫人倫絶り 深山とて 年餘七八十

に 是れ 兼源寺の坐像に 祈念せり 又

是年 兼源寺の坐像に 祈念せり 又

下馬橋 伊予洗川に渡り石橋あり俗に廿五地格といふ是より南江家所と伊予のあり
 帝王の皇居或ハ親王方大臣家將軍家あり此地あり
 又後日本紀の大室二年 太上天皇三行あり 御幸の際に尾
 張國に行宮と造りて之に記せし 皇居の傍に今皇宮あり又斐田のうちに大湫あり
 御幸の時後夫とよせし 地名ありしに 龍名寺ありしに 龍名寺ありしに
 清言門の色或ハ古湫林の表ありしに 龍名寺ありしに 龍名寺ありしに
 今日結願鬼走といふなり

鎮守弁方天社 本堂の乾の
 多寶塔跡 今の不動堂古湫
 あり享祿の頃
 鎮守弁方天社 本堂の乾の
 多寶塔跡 今の不動堂古湫
 あり享祿の頃

鎮守弁方天社 本堂の乾の
 多寶塔跡 今の不動堂古湫
 あり享祿の頃

圓通寺
羽休秋葉宮

當寺向山義孝
 禪師ハ志州渡松
 普濟寺の開祖
 岩義尹禪師 道元禪
 師の師
 弟ニの皇子
 弟ニの皇子
 弟ニの皇子
 弟ニの皇子
 弟ニの皇子



くはすの... 清雪門の... 田島山... 秋月院... 野鶴... 年... と建... の... 千子... 補陀山... 鎮守... 秋葉社... 南新宮... 大福田社... 朱雀院... 勅... 祭... 汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

泪川

清雪門のありて厚覺善に... 田島山... 秋月院... 野鶴... 年... と建... の... 千子...

弓頭山秋月院

田島山... 秋月院... 野鶴... 年... と建... の... 千子...

秋月院

秋月院... 野鶴... 年... と建... の... 千子...

野鶴

野鶴... 年... と建... の... 千子...

年

年... と建... の... 千子...

と建

と建... の... 千子...

の

の... 千子...

千子

千子... 補陀山... 鎮守... 秋葉社... 南新宮... 大福田社... 朱雀院... 勅... 祭... 汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

補陀山圓通寺

田島山... 鎮守... 秋葉社... 南新宮... 大福田社... 朱雀院... 勅... 祭... 汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

鎮守辨財天社

鎮守... 秋葉社... 南新宮... 大福田社... 朱雀院... 勅... 祭... 汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

秋葉社

秋葉社... 南新宮... 大福田社... 朱雀院... 勅... 祭... 汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

南新宮天王社

南新宮... 大福田社... 朱雀院... 勅... 祭... 汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

大福田社

大福田社... 朱雀院... 勅... 祭... 汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

朱雀院

朱雀院... 勅... 祭... 汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

勅

勅... 祭... 汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

祭

祭... 汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

汗

汗... 社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社

社... 日割... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

日割御子神社

日割御子神社... 社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

延喜式に愛智郡日割御子神

延喜式に愛智郡日割御子神

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

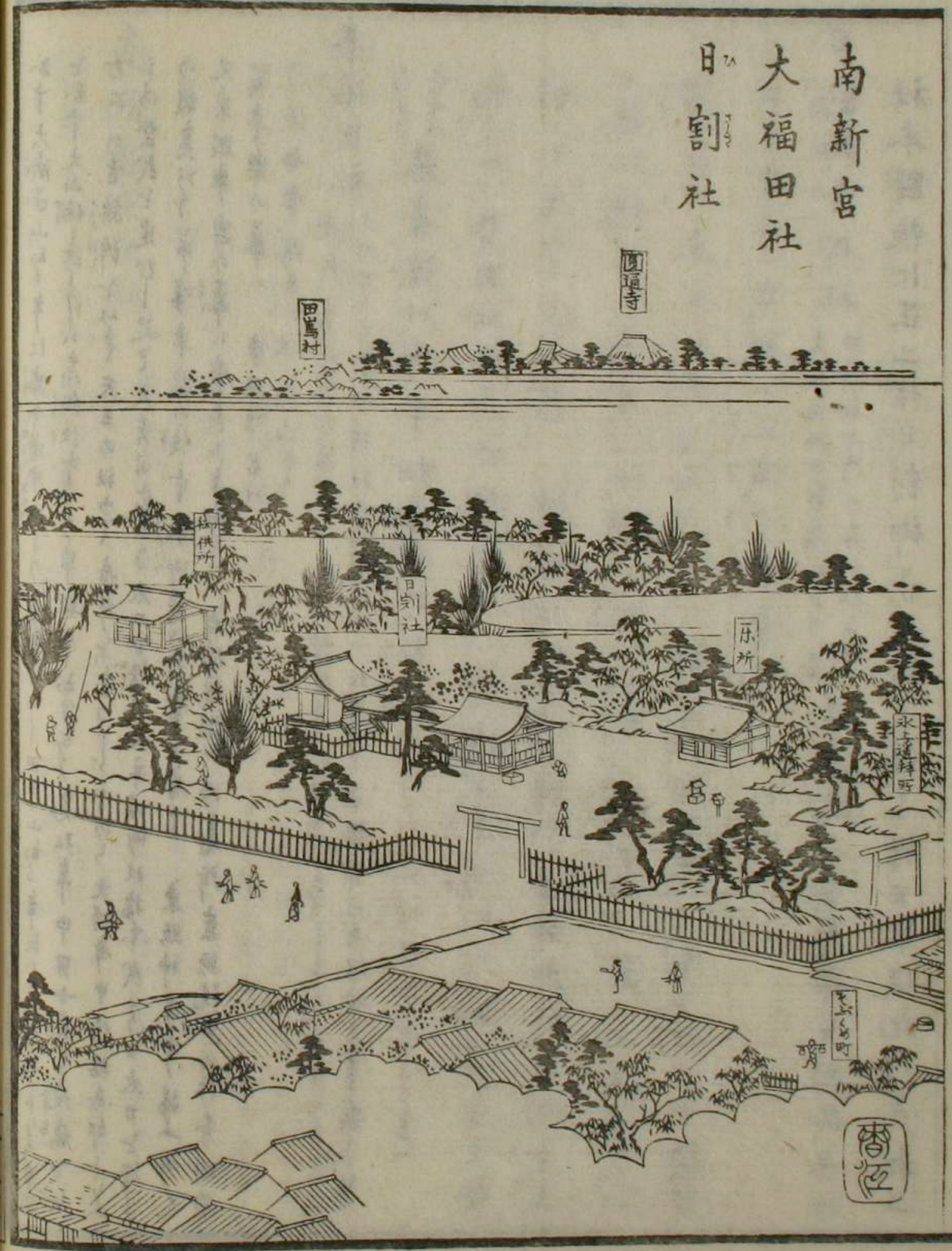
社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

社本國帳に正二位日割御子天神と祀り續日本後紀に美和二

南新宮
大福田社
日割社



香

兼中夜春百首

日割の社
杉
うらぬ
うらぬ
うらぬ
如蘭



市場町

南新宮祭

大山車樂

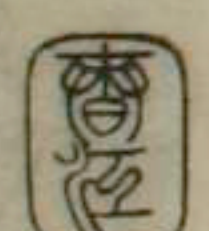
大山ハ上段ハ小社の形なりて
 三次の段ハハコノ大木と
 人形とカキカケと
 七段に

組上小社
 の段より下段まで
 車ノ輪サ十二百余
 厚サ一尺一寸人形各七尺程又
 四段目此様に大輪の造りあり
 二段目より大地の造りあり
 下段の段ハハコノ大木と
 人形とカキカケと
 七段に



まハ山と引張の太サ二尺
 長五十石より又車樂ハ上段
 小幕と山形と此其上に
 在りて申樂の人形と
 上ハ板と建下ハ板のはく
 瓦とさす形此正しく
 右刀といふより申樂四段の
 板ハハコノ大木と
 人形とカキカケと
 七段に

且大山の
 ち刀板して見一人
 竹葉にのりて大宮司を
 古式の式
 南世にうりて古雅の風物
 真に見るべし



年十二月壬午尾張國日割御子神孫若御子神高座結御子神
 惣三前奉預名神並熱田大神御兒神也々凡々神名帳頭注に
 尾張國年魚市郡日割御子日本武五男武鼓玉也々々々

 境内南此方に水上神社遙拝所の鳥居あり
 社名多岐大寺村江あり

尾張名所圖會卷之三 終

熱田之部
 深川忠豐全撰



